

## 【サード】挑戦のステージ

## ③ サードステージのねらい

目標に向かって、仲間と共に協力しながらやり遂げることで、最後まであきらめずに挑戦しようという気持ちをもつ。



## 8月4日 登山

鍋割山・荒山高原

登山1日目。交流の家～鍋割山・荒山高原～交流の家までの距離約14km、累積標高差約800mの道のり。初めの山ですが、急勾配のある難所がいくつもあり、途中弱音を吐く仲間に対して、励ましの声をかける姿が見られました。

## 【ふりかえりカードから】

- 〈挑〉少し遅れている子がいたら「頑張れ！」などと声をかけることができた。(小6男)
- 〈協〉みんなで危ないことや気をつけたほうがいいことについて、教え合いながら取り組むことができた。(中2女)
- 〈発〉仲間からの声かけがあったおかげで、とても気持ちが良い頂上に登ることができた。(小5男)
- 〈相〉様々な場面で「大丈夫？」などと言ってくれて嬉しかった。(小6女)

## 8月5日 登山

かもんがたけ  
掃部ヶ岳・榛名富士

登山2日目。掃部ヶ岳～榛名富士までの距離約10km、累積標高差約700mの道のり。各班、チームごとの行動ということで、どの班も途中、何度も足を止めて、話し合います。班がバラバラになることもありましたが、仲間のペースに合わせて、全員でゴールすることができました。



## 【ふりかえりカードから】

- 〈挑〉昨日より、仲間のことを応援できるようになった。(小5男)
- 〈協〉水分がなくなった仲間に、適時補給することができた。(中1男)
- 〈発〉身体の痛みがあったけど、仲間が声をかけてくれたことでやり切ることができた。(小6女)
- 〈相〉チームの仲間のペースに合わせて歩いてくれた。(小6男)



## 8月6日 休息日

洗濯・野外炊事・フォトフレーム作り・テント設営練習

身体と心を休める休息日。1日ゆっくりと過ごすことができました。班での活動は4日目、洗濯や野外炊事、テント設営練習など、仲間とかわり合い、お互いを認め合いながら協力して活動に取り組む姿が見られました。思い出作りとして、フォトフレームを作製し、参加者同士でサインを書き合うなどの様子が見られました。

## 【ふりかえりカードから】

- 〈挑〉野外炊事では、仲間の動きを見ながら、自分で考え、足りないところを手伝うことができた。(中2男)
- 〈協〉洗濯中など、空いている時間に何をするか、みんなで話し合いながら活動を進めることができた。(小6男)
- 〈発〉休息日を過ごしたことで、周りの友達の違う一面を知ることができた。(中2女)
- 〈相〉火おこしの方法を教えてくれた。(小5男)

## 8月7日 登山

鈴ヶ岳・地藏岳・長七郎山～赤城山分校



登山3日目。鈴ヶ岳～地藏岳～長七郎山までの距離約18km、累積標高差約1,000mの道のり。3つの山ということで、今までと比べると、途中に休憩を多くはさみながら、ゆっくりとした行程です。長い道のりで疲れもピークでしたが、全員で、そして班ごとに笑顔で声をかけ合いながらやり遂げることができました。

夜は、赤城山分校(テント泊)に一泊。仲間とテントを設営し、会話を弾ませながら過ごしていました。翌日早朝の赤城山最高峰アタックに備え、しっかりとご飯を食べ、早めの睡眠をとりました。

## 【ふりかえりカードから】

- 〈挑〉これまでは、自分のことで精一杯だったけど、3つの登山の中で応援をすることができた。(小6男)
- 〈協〉仲間と決めたポジティブな声かけを守りながら、取り組むことができた。(中1男)
- 〈発〉仲間からの励ましの声かけなどがあって、自分の限界を超えることができた。(小5男)
- 〈相〉登山中、辛い時にポジティブな声をたくさんかけてくれた。(小6女)



## 8月8日 登山

くろびさん  
黒檜山・駒ヶ岳

登山最終日。黒檜山～駒ヶ岳までの距離約8km、累積標高差約500mの道のり。赤城山最高峰の黒檜山山頂を目指します。一人一人が自分だけではなく、班の仲間やそれ以外の仲間にも、積極的に大きな声で励まし合いながら、全員で最後まであきらめずに登ることができました。登山をやりきった気持ちを仲間と分かち合い、達成感でいっぱいになりました。

最後、駒ヶ岳から県立赤城公園ビジターセンターまで歩き、ついにゴールです。参加者とボランティアスタッフ、職員全員一列になって、手をつなぎながら最後の一步を踏み出しました。総距離約50km、累積標高差約3,000mの長い旅路のゴール。6日間の思い出が一気に溢れ出てきます。仲間と共に、最高の登山チャレンジができました。

## 【ふりかえりカードから】

- 〈挑〉積極的に仲間のために声をかけながら、赤城山最高峰を制覇することができた。(小6男)
- 〈協〉自分の班だけでなく、他の班の仲間にも声をかけ続け、登山活動に取り組むことができた。(中1男)
- 〈発〉最後の山に登れたのは、仲間からの助け合いがあったからである。(小6女)
- 〈相〉チームの仲間のために、2Lのポリタンクを持っていてくれた。(小5男)